

---

# ある朝の風景

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ある朝の風景

### 【著者名】

Z4500D

### 【あらすじ】

一人の男の朝の戦い。信じれば勝利は近い。

私の朝は目覚し時計で始まる。

けたたましく鳴り響く音を頼りに、目を閉じて腹ばいになりながら、すぐに止められないよう遠くに置いたはずの目覚ましを探して這いまわる。もちろん布団はかぶつたまま。枕は頭の上に乗せてある。

布団から伸びた手がよつやく目覚ましを見つける。しかし私の意識は再び眠りの呼び声に応じて遠ざかり、心の奥底にあるという普遍的無意識領域に赴いて「」という魔物に挑むも世界の終わりをいかんもうこんな時間だ。

あわてて布団を蹴りとばし、枕を掴んで放り投げ、いざ立ち上がりと頭を上げるとそこはテーブルの下。ガツンと出来損ないの打楽器がいびつな音を立てる。ショックイングだ。超痛い。

しかしあかげで目がさめた。見開いた目に映るのはボケボケのブルブレ。眼鏡はどこだ。

辺りを手当たり次第に探すも見つからない。どういうことか。時計を見ると、とんでもない時間なので朝食は省略してコーヒーだけにする。私は今まで、何があのうともコーヒーだけは欠かしたことはない。

ところでコーヒーはどこだ。

テーブルの上に置いてあるはずのコーヒーセットがない。どういう事だ。

昨日の自分の行動を記憶の奥底からほじくり出して反芻してみる。昨日は同僚と居酒屋に入つてビールと清酒と焼酎とウーロンハイ…から後の事は、霞がかかつたというかなんか分厚い壁があるみたいで全く分からぬ。

時間はない、コーヒーもない。しかし私の朝はコーヒーなのだ。コーヒーがないと駄目なのだ。

焦る私は引出しをひっくり返し、開明墨汁と書いてある奴を見つけて「コーヒー カップに注いで飲んで吹いた。こんなのが飲めるか。少し落ち着いた私は、時間もないのにインスタントで妥協する事にした。

「コーヒーサーバーの上にドリッパーを置き、ペーパーフィルターをセットしてインスタントコーヒーを計量カップで投入する。やかんから沸いたお湯をドリッパーの上に注いだ所で考える。これ意味あるのか。いや考えたら負けだ。

コーヒーが出来上がる。私は何も考えずにコーヒーをカップに注いで飲んで吹いた。墨汁の入ったカップだった。

あとこの「コーヒーセットはいったいどこから出できたんだ。ない

と思つていたのに。

疑問は尽きないが、そんな事を考えている暇はない。昨日と同じ服を抱えて鏡の前へ行く。身だしなみを整えて、にっこりと笑顔。歯が黒い。

何だこのお歯黒は。

時間がないのでそのまま鞄を担いで駆け出す。笑わなきやいいんだ、寡黙な男はかつこいい。

荷物を抱え、安アパートのドアを開ける。鍵を閉めようとするがうまくいかない。

焦つているせいだらうか、落ち着け私。

額に汗をかきながらふと手元を見ると、502という数字の入った棒のついた鍵だった。

……これ、どこの？

なんだか愉快な気分になつた私は大口を開けて笑つた。  
まったく、これだから酔っ払いは。

「あらおはよう」

大家さんが通りかかる。

いつもにこやかな大家さんが、笑つている私の口を見て「ヒツ」と言ひ声と共に後ずさつた。

いかんいかん、寡黙な男、寡黙な男。  
安アパートの安い階段を駆け下りる。下でたまに挨拶を交わすお  
ばさんと出くわした。

寡黙な男、寡黙な男。私は会釈だけで通り過ぎる。

「あらあら、休みの日に大変ねえ」

私の全身が一時停止ボタンを押したかのように固まる。休み?  
そう、土曜だ。土曜なんだ。ようやく思い出した。昨日はそれで  
深酒に……。

まったく、これだから。私は大口を開けて笑った。

おばさんが私の口を見て「ヒツ」と言ひ趙と共に後ずさつた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4500d/>

---

ある朝の風景

2010年11月24日15時50分発行